

クラス	QA309	担当教員	山口 智子 (ヤマグチ サトコ)
テーマ	人生を語る—生涯にわたる自己ナラティブの変容		
著書・論文 研究課題等	著書『老いのところと寄り添うところ改訂版』編著、遠見書房、2017 『問いからはじめる発達心理学』共著、有斐閣、2016 『働く人びとのところとケア』編著、遠見書房、2014 『人生の語りの発達臨床心理』単著、ナカニシヤ出版、2004 『はじめての質的研究—事例から学ぶ (生涯発達編)』共著、東京図書、2007 他 論文「高齢者の回想法：技法からコミュニケーションの回復へ」『ナラティブとケア』4号、2010 研究課題「キャリアデザインとメンタルヘルス」「人生の語り」「面接法を用いた質的研究」		
ゼミナール概要			
キーワード：生涯発達心理学、臨床心理学、自己ナラティブ (自己物語)、ライフストーリー			
目的と内容			
<p>自己ナラティブとは、自分自身に関する語りです。「自分とは何か」というアイデンティティも自己ナラティブと言えます。成長の過程では、さまざまな発達課題があり、ときには、つまづくこともあります。私たちは、つまずきや障害や大切なものを喪失したとき、「なぜこんなことになったのか」を問い、体験を意味づけようとしますが、否定的な語りは心身の不調に関連します。しかし、人との出会い、体験、カウンセリングなどによって、自己は語りなおされ、肯定的に変容し、心身の不調が軽減する場合もあります。どのような自己ナラティブの変容が成長や心身の不調からの回復と関連しているのでしょうか？</p> <p>ゼミでは、①主に、ナラティブに関する理論や実践を学び、生涯にわたる自己ナラティブの変容について考えることを目的とします。また、②学びや研究を通して、論文を批判的に読む力をつけること、③物事を深く考える力をつけること、自分自身の考えを伝える力をつけることを目的とします。</p>			
授業計画等			
<p><3年次> 前期は、テキストを用いて、ナラティブの理論や実践に関する知識を深めます。さらに、関心がある領域の研究論文を取り上げて、論文を批判的に読む力を身につけます。</p> <p>後期は、少人数のグループで、調べてみたいテーマを決めて、研究を行います。これらの課題を通して、研究を行う力を身につけて、後期終了時には、各自が4年生で行う卒業研究のテーマを決めていく予定です。</p> <p><4年次> 各自が卒業研究に取り組みます。なお、就職や進学など、各自のめざす進路によって、研究の内容や進め方は異なる可能性があります。</p>			
担当教員からのメッセージ			
<p>*卒業研究は、自分自身がどんなことに興味を持っているのかを明らかにしていく、自己探求の作業でもあります。3年次は、そのための基礎作りです。頑張りましょう！！なお、卒業研究は自己ナラティブの研究でなくても認められます。自分のテーマを優先してください。応援します。</p> <p>*担当教員は、面接法や質的な分析に関心があります。自己、面接法、質的な分析に関心がある学生さんと、さまざまな体験の意味づけを明らかにしていきたいと思っています。研究をまとめる、研究力をつけるためには、ゼミに参加するだけでは不十分です。各自が図書館で文献を調べる時間なども必要です。研究やゼミ活動に積極的に前向きな人を募集します。これまでの卒論では、東日本大震災で大切な人を亡くした人の語り、アルバイト経験の就職活動への影響、多元的自己、悲観主義など様々なテーマが取り上げられています。</p> <p>*現在の主な臨床フィールドは産業心理臨床で、週1回、企業の相談室でカウンセリングを担当しています。また、児童相談所などでの児童臨床、精神科や脳神経外科での医療心理臨床などの経験もあり、ゼミ活動の中で、これらの臨床実践の奥深さも伝えていけたらいいなと考えています。</p>			